

# ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成13年 **2001.1**

月刊アカンサスニュース  
金沢大学広報紙 第53号

学長年頭所感

## 開放と自立を求めて

金沢大学長 林 勇二郎



第Ⅱ期移転用地である南地区の造成が進むにつれて、角間キャンパスの全体像が徐々に見えはじめて来た。中地区にある本部棟から眺める新しいアカデミックゾーンは、宏大でかつ開放的である。角間大橋を起点とし、ゾーンを巻くように走る幹線道は田上校下につながり、丘陵が削られた南西の方角には、小立野台の突端に位置する土清水の街並みが開ける。遠くに目をやると、倉ヶ岳、獅子吼、あけび街道が連なり、その左手には三輪山、三方岳、烏帽子の山々が聳<sup>そび</sup>える。冬の晴れた日に冠雪で輝く白山が望めるのも楽しい。角間キャンパスは、市街地から奥に入り込んだイメージがあるが、南地区の開発で、日本海と犀奥の山系にはさまれ、金沢市と一体となった雰囲気が醸し出されつつある。

21世紀の大学には、開放を前提とした新たな自立が問われている。少子・高齢化の社会、科学の知の創成が急がれる今日、さらには大学を取り巻く諸々の環境の変化は、大学にその在り方の見直しを求めている。アカデミズムの開放はこのような状況への根本からの対応であり、自立はこれまでの象牙の塔での独尊と、そこから下野した開放のはざまでの中立安定な自己の形成である。

開放の事業は、国際交流、地域医療、生涯教育、共同研究など多岐に及ぶが、それらは最終的には、大学が本来とする教育研究の入口や出口の問題にフィードバックされるべきものであろう。このような大学の自立には部局の意識差はあるが、部局の壁を低くし、自発的な流れを引き起こすことで解消されなければならない。

他方、部局の自立は部局のもつ個性の主張とも言えるものであり、大学の自立と競合するものではない。学問や専門の個性をもって部局が自立するとき、そこには多様性のある総合大学がある。多様性こそ社会の変化に耐えて学問が生存し続ける条件であり、その上で部局を越えた共通的な自立が確立される時、大学の発展が約束されよう。

新年にあたり、角間キャンパスの第Ⅱ期移転事業と宝町の再開発事業が順調に進行し、本学が開放と自立を求めて発展することを期待したい。

## 金沢大学「校章」「校旗」に関する規程を制定

本学の「校章」「校旗」に関する規程が制定され、校章はアカンサスの葉を図案化したもので、校旗(写真)は中央に校章をあしらった茄子紺色のものとなった。

なお、この規程は、21世紀の初日、平成13年1月1日から施行。



# 年頭のメッセージ

## 大学淘汰の時代



副学長(研究・環境担当) **花岡美代次**

21世紀を迎え、いよいよ大学淘汰の時代が始まる。いわゆる「護送船団方式」は色々な分野で決別の時を迎えている。大学もその例外ではない。大学には、より変革が求めら

れ、競争は益々激しくなり、流動的な大学の序列化は一層進むことになる。

これまで、折角よいアイデア・実績を有しながら、部局の壁に阻まれたり、遅きに失したりして、実現できなかったり、縮小せざるを得なかった計画・改革は少なくない。21世紀に生き残るために、仲良しクラブにはない厳しさ、単なる部局集合体ではない真の総合大学としての特色を生かした協力態勢、時機を逸さない迅速な決断と実行が強く望まれる。

## 「出口」整備を！



副学長(教育担当) **畑 安次**

就職戦線はすでに終わっている。数字をあげることは差し控えるが、金沢大学の卒業予定者の昨年11月末の就職内定率は「悲惨」の一語に尽きる。危機感を覚えるのは私だけ

だろうか。就職率を高めることだけが大学の使命であるとは私も考えない。しかし、自ら教育した学生が社会に受け入れられないという現実を拱手傍観しているわけにはいかない。卒業しても社会に受け入れられないような大学に、受験者がどれほどの魅力を感じるであろうか。入学時の偏差値で大学の評価が決まるという時代はすでに終わっている。学部教授会でこの就職内定率について真剣に議論をしていただきたい。本学の「出口」整備にひと汗かかねばならない。

## 医学系研究科 学位記授与式挙行

12月7日、医学部で、大学院医学系研究科の学位記授与式が行われ、博士課程修了者16人、論文審査合格者5人の計21人に林勇二郎学長から医学博士の学位記が授与された。



林学長から学位記を授与

### 目次

学長年頭所感 開放と自立を求めて……………	1	あぶない雪道走行 「交通安全講習会」実施……………	8
金沢大学「校章」「校旗」に関する規程を制定……………	1	医学部附属病院 中央設備室 “火入れ式”……………	8
年頭のメッセージ……………	2	受賞と助成……………	9
医学系研究科 学位記授与式挙行……………	2	「日本機械学会流体工学部門賞」……………	9
国立台湾師範大学 本学を訪問……………	3	世古真知子さん「金沢大学事務系職員表彰規程」第1号……………	9
金沢大学における生涯学習の充実		医学科ホームページデザイン募集4人を表彰……………	9
大学教育開放センターの活動……………	6	タフツ大学(大学間交流協定校)本学を来訪……………	10
金沢大学フォーラム		仕事納め……………	10
文部省 石井稔教育大学室長の特別講演会……………	7	永年の勤務、ご苦労様でした。……………	10
霜鳥秋則長岡技術科学大学副学長を招き講演会開催……………	7	金沢大学サテライト・プラザ……………	11
大学基準協会相互評価実地視察……………	7	『金沢大学研究者総覧2000』を公式ホームページに登載……………	11
理学部附属臨海実験所で外部評価……………	7	交流協定校等から届いたグリーティングカード……………	12
金沢桜丘高等学校1年生400人		キャンパス点描……………	12
総合的な学習「進路研究」に金沢大学を見学……………	8	編集後記……………	12
「第2回分析機器講習会」を開催……………	8		

## 年頭のメッセージ

### 2001年の計

副学長(学術情報担当) 和田敬四郎  
附属図書館長

20世紀は、ものづくりの世紀だった。科学技術の発達によって新しく作られたものは、ものすごい勢いで人々の生活の中に浸透していった。

しかし、大量生産・大量消費の陰に、とんでもない魔物が見

えかくれしてきた。魔物が大きくならないうちに退治しなければならない。退治できなくても大きくならないうちを講じなければならない。

そして、新しい世紀には幾多の問題を抱えつつも、新しい方向への第一歩を踏み出したい。新しいシステムの構築が求められ、新しい発想が必要であろう。競争社会を生き抜いていくために！

### 変化に立ち向かう 強い意志が求められる

事務局長 水上 修一

21世紀は、これまで以上に「先を見る力」が必要になる。

いつまでも今のままでいいと思って準備を怠っている、世の中の変化に驚くばかりで、気がついた時には遅れをとることになってしまう。

大学の夢を実現するためには、変化に立ち向かう強い意志と実行力が要求される。

## 国立台湾師範大学 本学を訪問

12月14日、国立台湾師範大学から簡茂發学長以下9人が本学を訪れた。

林勇二郎学長が大学改革等について説明をした後、大学の

評価、財務、人事管理、教育等について花岡美代次副学長以下8人の本学教官と意見交換を行った。

意見交換終了後、附属図書館、資料館を見学した。

なお、本学と同大学とは平成12年8月16日、交流についての覚書を交わした。

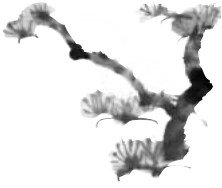


附属図書館を訪れる簡学長(左から2人目)  
一行を案内する和田副学長(右から2人目)



あいさつをする林学長(学長室にて)

## 年頭のメッセージ



### 新世紀を迎え、各部署長から メッセージをいただきました。



#### 新世紀を迎えて

文学部長 土屋 純一



西暦2001年を迎えた。一昨年は2000年問題がひとしきり話題になり、置閏規則とも関連して、紀年法に人々の関心が集まった。今年下2桁が1に戻ったわけだが、難しく言うと、西暦紀年は直線的時間観念と回帰的時間観念のたくみな総合であることが知られる。

#### 新世紀は「心」の教育から

教育学部長 杉本 幹博



ふり返れば、高度の科学技術に支えられた豊かな生活環境が見えます。新世紀はこの豊かさ、便利さを単に享受するだけではなく、先人たちが脈々と培ってきた人間としての「心」の文化をも受け継ぎ、「心」を豊かに育む時代にしたいものです。

#### 法学教育の改革をめざして

法学部長 中島 史雄



21世紀の初頭は、大学にとり単なる世紀の変わり目にとどまらず、改革の大きなふし目となりそうです。とりわけ法学部にとっては法科大学院(ロースクール)の設置等との関連で、限られた時間的制約の中で教育内容の変革その他多くの難問について、決断実行をせまられるものと思います。多くの方々の英知をいただいて、より良い改革をめざしていきたいと存じます。

#### 21世紀への願望

経済学部長 小林 昭



20世紀の経験を踏まえて、人類が物質的な富や利便性の無限の向上の限界を認め、異なる価値観や文化の存在を許容し合い、戦争を行わず、人類以外の生命体や地球環境を犠牲にしないでいけるかどうか。悲観しがちな現状認識と楽観的でありたいという願望とが相半ばする心境です。

#### 「アメリカ人vs日本人」

理学部長 樋渡 保秋



デンバーよりフォルトコリンズまでの自動車道はほぼ真っ直ぐ南北に伸び、ハンドルはめったに切る必要はない。周囲はコーン畑が延々と続くばかりである。おおらかでそれでいてワイルドなアメリカ人。せせこましく、繊細な日本人。この相違はやっぱり訳ありか。

#### 研究のヒント

医学部長 馬淵 宏



新世紀を迎えても、「自らの体験で得た発想」を基に研究を進める積りです。「今夜の夕飯は何にしようか？」と考えていても、あまりアイデアは浮かばないでしょう。料理の本を読むより、スーパーマーケットの食材を見て歩けば献立が浮かんできます。作家森村誠一氏が、小説のヒントに、他人が言う「私は非常に奇異な体験をしました」という話はあまり面白くなく、夜中に自分で自転車に乗って、ごく普通の街角のゴミ収集場所に捨てられたゴミ袋を盗ってきて、中味を掻きだして調べると面白いヒントが得られると、語っておりました。研究と同じだなあと感心しました。



## 年頭のメッセージ

### 機構改革の企画・実施・完遂



薬学部長 辻 彰

新しい機構改革を企画し、恐れずに実施に移すことが求められている。しかし、一旦その改革に向ける決意をしたら、貫き通す努力も必要である。

「去年今年貫く棒の如きもの」 虚子

### 「大学改革の21世紀」



工学部長 畑 朋延

大学変革の荒波が押し寄せてくる新しい世紀に入りました。我々は考えを変革するばかりでなく、そのための具体的なアクションプランが求められて

いるのです。金沢大学の理念に基づき教育、研究を充実させ、生き残りをかけて実践しようではありませんか。

### さまざまな時間



社会環境科学研究科長 鹿野 勝彦

昼食をとり食堂へ入ったら、時計の針は7時を指していた。「ここでは1日は夜明けに始まる。時計が狂っているわけじゃない」と、友人が教えてく

れた。エチオピアの田舎町でのことだ。時間の捉え方も場所によってさまざまという事実を忘れてはなるまい。

### より学際性、総合性のある研究・教育活動をめざして



自然科学研究科長 尾田 十八

今世紀は環境・情報・バイオの世紀と言われています。これらはすべて学際性、総合性のきわめて必要な分野であり、かつこのこと自身、当研究科の

設立理念でもあります。これらの分野への活発な研究・教育活動を通して、当研究科の重点化への道をめざします。

### 「世界に羽ばたく研究所を目指して」



がん研究所長 磨伊 正義

年明け早々に世界のがん研究をリードする著名な外国研究者を交えて国際外部評価を行い、大学附置研究所のあり方に関する貴重な意見を頂きました。

これを指針に腫瘍ゲノム科学を基盤とした先端がん医療開発により力を注ぎ、存在感のある21世紀型の研究所を目指して邁進します。

### 高度先進医療を新築の附属病院で



附属病院長 河崎 一夫

今年は附属病院の飛躍の年です。10月には附属病院再開の最初の成果として、10階建の待望の新病棟が竣工します。新病棟では最新の医療設備と最

高の居住性の病室を備え、がん研究所附属病院と統合して機能を一段と充実させ、高度先端医療を一層促進します。

### 新しい教養教育を目指して



教養教育機構長 田中 一郎

大学全入時代を迎えようとしている今日、ほぼすべての学生が一堂に集う教養教育の役割はますます大きくなりつつあると言わざるを得ません。カリ

キュラムの改善と学習環境の整備を通じて、新たな決意で社会と学生の期待に応えていきたいと考えています。



# 生涯学習

## 金沢大学における生涯学習の充実 大学教育開放センターの活動

大学教育開放センターは、昭和51年の設置以来、20数年の歴史があり、現在「あなたが主役、舞台は金沢大学」という標語を掲げ、多くの事業を展開しその使命を果たしている。

近年、人々の学習ニーズは高度化するとともに広範囲にわたるようになった。総合大学としての金沢大学は、大学生に対してだけでなく、広く地域の人々に対し

ても「いつでも学べる身近な学習機関」としての機能を拡充強化している。

大学教育開放センターの中心的な事業は、次の三つ。

### (1) 社会人へ学習機会の提供

現代的課題に対応した「公開講座」、各学部との「共催による公開講座」、県内全41市町村のニーズに応えた「市町村との共催講座」、平成11年度から「知の集積回路：プロジェクト金沢」で最高視聴率5.8%を記録したテレビ放送講座など。

### (2) 地域社会との連携・活動支援

金沢大学と地域との掛け橋を強化するための、さまざまなプロジェクトの立案や会場の提供という形で推進されているもの。

### 平成12年度テレビ講座「知の集積回路：プロジェクト金沢II 産学官協力の最前線」

主催	金沢大学大学教育開放センター	制作	北陸放送 (MRO) 形式：テレビ放送 回数：45分×5回 (本放送分及び再放送)	放送日時	平成13年2月2日(金)～3月2日(金) 毎週金曜日：10:20～11:05 全5回
回	テーマ・概要		担当講師等	部局PR	
第1回	地域（地域の資源や特性等を活用しての地域活性化と新産業創出） ・ フラストレストコンクリート橋の歴史的変遷を訪ねて～長生橋および泰平橋の耐久性調査～（工 鳥居） ・ 加賀黄連に関する史的考察と栽培研究（薬 御影） ・ 人工戸室石の開発及び生珪藻土のボード化に関する研究（共セ 廣瀬）		鳥居 和之(教授) 御影 雅幸(教授) 廣瀬 幸雄(教授)	金沢大学 全体	
第2回	地域（地元企業の技術高度化や課題解決を通じた地域産業振興） ・ 食品加工過程での廃棄物活用（工 小森） ・ 電磁波のトータルな地域先導的研究の実施と産業の高度化（工 長野） ・ 体細胞クローン牛の遺伝子診断（遺伝子実験施設 山口）		小森 友明(教授) 長野 勇(教授) 山口 和男(教授)	共同研究センター	
第3回	健康（産学官の連携協力による健康維持への最前線） ・ 循環器領域における無侵襲的検査法と治療法の研究開発（医 高田） ・ バイオメカニクスによる人工関節・脊椎の開発研究（工 尾田・坂本） ・ 新たな健康指標への取り組み -肥満およびバランス能力指標の開発-（教 出村）		高田 重男(教授) 尾田 十八(教授) 坂本 二郎(助教授) 出村 慎一(教授)	留学生センター	
第4回	環境（産学官の連携協力による環境問題解決の最前線） ・ 有害なガスや粒子を大気中に放出させない技術（工 江見） ・ 環境ホルモンの汚染と健康影響（薬 早川） ・ 重油汚染や水質汚染のバイオレメディエーション（理 田崎）		江見 準(教授) 早川 和一(教授) 田崎 和江(教授)	外国語教育研究 センター	
第5回	情報・教育（産学官の連携協力による情報技術活用の最前線） ・ マルチメディア教育の現状と未来（教 黒上） ・ 計算科学の問題解決環境～産学官による21世紀のIT活用能力構築～（理 田子） ・ IT活用での地域情報発信とコミュニティベンチャー開発（経 飯島）		黒上 晴夫(助教授) 田子 精男(教授) 飯島 泰祐(助教授)	事務組織・企画広報室・ 大学教育開放センター	

### (3) 社会教育指導者の養成等

社会教育主事講習は石川・富山・福井・岐阜の4県を対象に、夏季休暇を利用して33日間の集中的講座で、毎年約100人ほどが単位修得の認定を受けている。また、学校図書館司書教諭講習も行っている。



平成12年度社会教育主事講習会（大学開放センター前で平成12年7月24日撮影）

### 大学教育開放センターの活動状況（昭和51年度～平成11年度）

講座 年度	公開講座		学部との共催		特別講演会		放送講座		市町村との共催		社会教育主事講習		合計		
	講座数	受講者数	講座数	受講者数	講座数	受講者数	講座数	受講者数 (テキスト購入者)	市町村数	講座数	受講者数	講座数	受講者数	講座数	受講者数
昭和51年～平成6年度	177	8,538	14	1,292	14	585	38	3,545	293	924	38,674	18	2,009	1,185	54,643
平成7年	9	203	2	78	0	0	2	160	11	30	1,107	1	100	44	1,648
平成8年	7	303	2	104	0	0	2	204	17	43	1,917	1	93	55	2,621
平成9年	8	133	3	75	0	0	2	48	13	44	1,635	1	100	58	1,991
平成10年	8	327	5	142	0	0	2	111	13	45	1,692	1	74	61	2,346
平成11年	8	284	5	159	1	100	1	※45,000	14	42	1,641	1	77	58	47,261
計	217	9,788	31	1,850	15	685		平均視聴率4.2%	361	1,128	46,666	23	2,453		
平成12年	8	189	4	73	0	0	1		10	32	1,867	1	102		(H13.1.9現在)

## 講演・外部評価

### 金沢大学フォーラム 文部省 石井稔教育大学室長の 特別講演会

12月5日、事務局大会議室で「平成12年度第2回金沢大学フォーラム」として、文部省高等教育局大学課教育大学室石井稔室長の特別講演会が開催された。

林勇二郎学長のあいさつに続き、石井室長は「教員養成系学部の当面する諸課題について」のテーマで、教員養成学部の沿革について説明した後、「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」の発足について触れ、教員養成学部のめざすべき方向性を指摘した。

この後、活発な質疑・応答が行われ、杉本幹博教育学部長



講演する文部省石井室長

から謝辞を含めたあいさつで講演会を締めくくった。

会場は、教育学部、同附属学校園の100人を含む150人の参加者で満員になった。

### 霜鳥秋則長岡技術科学大学副学長を招き 講演会開催



講演する霜鳥長岡技術科学大学副学長

12月7日、総合情報処理センター・プレゼンテーション室で霜鳥秋則長岡技術科学大学副学長による「長岡技術科学大学における大学改革」と題した講演会が開催された。

講演では、長岡技術科学大学における取り組みや、映画「タイタニック」、イソップ物語の「蟻とキリギリス」を引き合いに大学改革におけるポイントを述べた。

事務局を中心とした約50人の参加者は、ユーモア溢れる話に笑いを誘われながらも、貴重な話から多くを学びとっていた。

### 大学基準協会相互評価実地視察

12月18日、大南正瑛大学基準協会相互評価委員会委員以下3人による大学基準協会相互評価実地視察が行われた。

事務局大会議室で面談調査が行われた後、午後からは附属図書館をはじめ、工学部、薬学部、医学部、教育学部、外国語教育研究センター、理学部、総合情報処理センターで現地視察が行われた。

その後、面談調査及び施設の視察に関する講評が行われた。なお、評価の結果は3月中旬、本学に通知される予定。



附属図書館での視察

### 理学部附属臨海実験所で外部評価

12月14、15の両日、長濱嘉孝委員（岡崎国立共同研究機構）、星元紀委員（慶応義塾大学）、道端齋委員（広島大学）により、理学部附属臨海実験所の視察を含む全体評価が行われた。

外部評価報告書は、3月中に発行される予定。



評価委員（左）、理学部長、臨海実験所長等（右）

## トピックス

金沢桜丘高等学校1年生400人  
総合的な学習「進路研究」に金沢大学を見学

11月18日、石川県立金沢桜丘高等学校1年生全生徒400人が、総合的な学習「進路研究」の一環として本学を見学した。

当日午前9時、角間キャンパスに、大型バス10台を連ねて到着、文法経済学部講義室で全体説明を受けた。

全体説明会では、広報ビデオ「金沢大学の過去・現在・未来」が放映され畑安次副学長から、金沢大学の特徴・授業内容・大学と高校の違い等について説明がなされた。

引き続きのキャンパス見学では、入試課職員が5班に分

かれて引率し、附属図書館、大学会館、総合

情報処理センター、理学部、教育学部をそれぞれ案内した。

なお、同校OBの廣瀬幸雄共同研究センター長・理学部教授、水上修一事務局長が出席し、廣瀬センター長から母校の思い出を含めたあいさつがあった。



畑副学長のあいさつを聞く高校生

## 「第2回分析機器講習会」を開催

機器分析センターでは、11月28日、薬学部第1NMR室で、第2回目の講習会を開催した。

これは、分析機器の共同利用を促進し、本学の自然科学教育・研究のレベルの向上に資することを目指し、今回は、「高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置」について実施した。

教職員・学生21人が出席し、真剣に機器の操作等の講習を受けた。



真剣に説明を聞く受講者

あぶない雪道走行  
「交通安全講習会」実施指導する青野教務・  
学生委員会委員長  
と受講学生

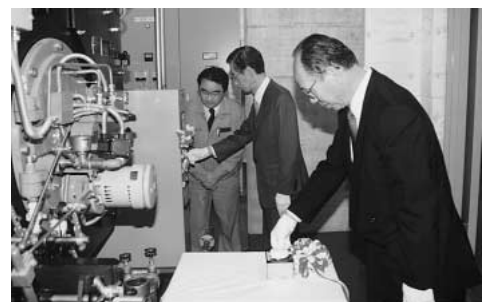
12月5日、教養教育機構主催で総合教育棟を会場に、雪道における安全走行を中心とした「交通安全講習会」が実施された。雪道が初めてという学生が多数参加し、青野透教養教育機構教務・学生委員会委員長から、学生による交通事故例、学内交通ルール、マナー等の指導を受けた。また、県警察本部交通部運転免許課の小林光臣運転教育補佐から、雪道走行の注意事項について、具体的事例に基づく講義があった。

医学部附属病院  
中央設備室“火入れ式”

新築工事中である医学部附属病院の中央設備室の竣工で、12月8日、ボイラー及び発電機の火入れ式を行った。

小林勉医学部附属病院院長補佐がボイラー、水上修一事務局長が発電機の点火を行い、将来の安全運転を祈願した。

なお、和田出静子看護部長、齋藤信一郎事務部長をはじめ総勢20人が出席した。





## トピックス

「日本機械学会  
流体工学部門賞」

9月9日に開催された日本機械学会第78期流体工学部門講演会において、工学部機能機械工学科の岡島厚教授が「部門賞」を受賞した。



工学部  
岡島 厚 教授

## 受賞と助成

財団法人澁谷学術文化スポーツ振興財団から推薦の依頼があり、本学から推薦した教官のうち、次の4人が助成を受けた。



「膝関節使いすぎ症候群の病態と治療」

医学部  
北岡 克彦 講師



「バイオマスの高度資源化技術の開発」

工学部  
林 良茂 教授



「高齢者の健康・体力に関する研究」

教育学部  
出村 慎一 教授

「半導体を用いない集積回路構成技術の研究」 工学部 北川 章夫 助教授

## 世古真知子さん

## 「金沢大学事務系職員表彰規程」第1号

第55回国民体育大会秋季大会ライフル射撃競技会チーム・ライフル女子立射40発競技部門で入賞した総務部総務課職員世古真知子さんが、11月20日、金沢大学事務系職員表彰を受けた。

なお、世古さんは同規程1号の表彰。



林学長から表彰状を受ける世古さん（左）

医学科ホームページデザイン募集  
4人を表彰

医学部医学科では、公式ホームページを開設するにあたり、ホームページ委員会が主催して広く表紙デザインを募集した。12月5日デザイン募集に応募した中から、最優秀賞及び優秀賞を選び、医学部長から賞状並びに副賞が授与された。

最優秀賞 医学科6年 斎藤 敦

優秀賞 医学科4年 西田佑児, 金子真美, 石倉和秀

なお、医学科公式ホームページは11月15日に開設され、ホームページ委員会の管理のもとに専任の係員をおいて運用、更新を行っている。



左から吉本教授（ホームページ委員長）、斎藤君、金子君、馬淵医学部長（前列中央）西田君、石倉君、天野助教授（ホームページ委員）〔医学部長室にて〕

## 学長・副学長室

### タフツ大学(大学間交流協定校) 本学を来訪

12月15日、タフツ大学（アメリカ合衆国）からベイン学生交流プログラム・ディレクター、松田園子レジデント・ディレクターが本学を訪れ、林学長を表敬訪問した。



学長室で

## 仕事納め

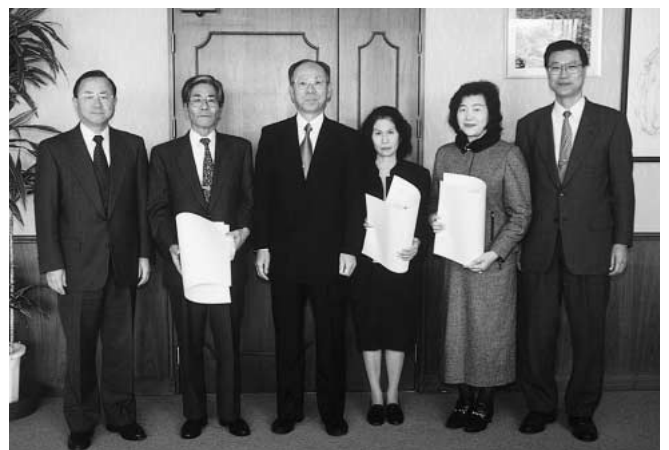
12月28日、事務局大会議室で仕事納めが行われ、各副学長、事務局全職員が一堂に会し、林学長から1年の仕事を締めくくるあいさつがあった。



## 永年の勤務，ご苦労様でした。

12月31日付けで退職する職員に対して、12月28日、事務局長室において永年勤続者表彰が行われた。

これは、退職日において勤続期間が35年以上の職員が対象で、表彰されたのは、廣田和子文・法・経済学部事務主任、中村尚弘医学部附属病院業務課課長補佐、宮岸三千子薬学部・がん研究所事務主任の3人。



写真左から吉田総務部長，中村課長補佐，水上事務局長  
廣田事務主任，宮岸事務主任，森口人事課長

# サテライト・プラザ

## 「金沢大学サテライト・プラザ」

第8回 12月2日(土)

講師 内田 忠 平  
(大学教育開放センター教授)

### 演題 「地域に生かすこれからの大学」

内田忠平教授による講演の後、内田教授と小寺照久石川県公民館連合会長、ほかに3人の金沢市内の公民館主事をパネリストに「公民館活動と金沢大学」について討論がくりひろげられた。

金沢大学が地域にどのように係わることができるか等について、会場が一体となって意見を出し合った。

参加した学生からは、このような講演にもっと学生が参加すべきで、そのために大学側が学生に積極的に参加を呼びかけるべきではないかとの感想が後日寄せられた。

来場者：95人



講演する内田教授



参加者の笑みがこぼれる満員の会場  
(写真部学生撮影)

第9回 12月16日(土)

講師 八重澤 (松下) 美知子  
(留学生センター教授)

### 演題 「ひと(男性)とひと(女性),共に自分らしい生き方を」

ここ数年、盛んに使われている「ジェンダー (社会・文化・心理学的性差)」について、初めて学ぶ人にも解りやすいような講演が行われた。

男女それぞれ半数の参加者で満員の会場から、多くの意見が飛び出し、講師との活発な意見交換があった。

来場者：75人



八重澤教授

意見を述べる参加者

## 『金沢大学研究者総覧2000』を 公式ホームページに登載

『金沢大学研究者総覧2000』の「公式ホームページ」への登載作業が完了した。これにより、新世紀の始まりとともに、学内外からのアクセスが可能になった。

なお、現在は、平成12年2月1日現在の情報で登載されている。早い時期に最新のものに変更することを検討中。

(公式ホームページのアドレスは12頁下に記載。)



研究者総覧のHPの画面

## 交流協定校等から届いた グリーティングカード

交流協定校等からたくさんのお祝いの言葉が書かれたカードが林学長あてに届いた。

林学長からも交流協定校に対してお祝いの言葉をつづったカードを送った。



## キャンパス点描

### 女性専用 駐車場を新設

駐車場で理学部棟から一番近い所に74台の「女性専用」駐車スペースが設けられた。



女性専用駐車場にて

## 編 集 後 記

あけましておめでとうございます。

いよいよ21世紀になりました。例年とは若干異なった清新な気持ちで新年を迎えましたが、皆様はいかがでしたでしょうか。

新世紀・新年を迎えましたので、お忙しい中でしたが、学長の年頭所感を、各部署長の皆様に年頭のメッセージをお願いしました。それぞれに新世紀への思い、新しい年への思いが表されております。

平成13年(2001年)は、国立大学にとって独立行政法人化への移行の決定という、まさに正念場を迎えること

になりそうです。また金沢大学にとっては、ここまで取り組んできている各種の課題の解決に向けて、これも正念場を迎えることとなりそうです。

一方、総合移転第II期計画事業の順調な進捗を祈念し、2001年が金沢大学にとって、更なる飛躍と発展の年になるよう、全構成員が力を合わせて進んでいきたいものです。

(総務部長 吉田真言)

平成13年1月19日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5022  
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称「KUPIS」(キューピーズ))  
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。  
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。